

# 審判上の確認

審判委員長

1. 本大会は、2022度（公財）日本バレーボール協会制定6人制競技規則及び競技要項、（公財）日本中体連バレーボール競技部の6人制ルールの取り扱いによる。
  - ① タイムアウトは、ハンドシグナルを明確に示すこと。
  - ② セット間は、フリーゾーンでのボールの使用を認めるが、隣のコート of 邪魔にならないように注意し、パス程度とする。
  - ③ リベロの交代は、サイドライン上（6m範囲）で一旦止まって行うこと。
  - ④ コートエンド側の競技エリアは6.5mとする。
2. 本大会は、ワンボール・システムで試合を行うので、デッドになったボールは、速やかに次のサーバーに渡すこと。
3. 本大会は、プロトコールシステムで行う。
  - ① 合同練習は、試合審判の指示に従ってプロトコール開始前に行う。
  - ② トスは、公式練習前に記録席前で行う。チームキャプテンはキャプテンマークのついたユニフォームを着用していること。
  - ③ トス終了後、監督及びチームキャプテンは記録用紙にサインをする。
  - ④ リベロ選手の登録は、2名まで認められ、試合ごとに変更することができる。
  - ⑤ 公式練習時間は、両チーム合同で行う場合は6分間とし、単独で行う場合は3分間ずつとする。また、公式練習はエントリーメンバーで行うこと。
4. 試合中のワイピングは、原則としてコートの中の選手が行う。モップの使用は審判の判断による。タイムアウト中とセット間はゲームに出ていない選手がモップを使用してワイピングを行うことができる。
5. スタッフの服装については、チームで統一されたものとする。（監督・コーチの服装《上衣》は襟付きのものとする。）
6. その他
  - ① COVID-19 感染拡大予防のため、コートチェンジを行わない。
  - ② 監督は、チームベンチの記録席に最も近い席に座る。
  - ③ 監督は、試合中、試合の妨害あるいは遅延をしない限り、自チームのベンチ前から、ウォームアップエリアまでのフリーゾーンの範囲内では、立ったままで、あるいは歩きながら指示を与えることができる。ただしラリー中はベンチに座る。
  - ④ プレーヤー及びベンチのマナーについては十分に留意し、スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。（相手に向かってのガッツポーズなど）
  - ⑤ 反則を指摘された選手は、挙手をするように指導すること。
  - ⑥ ボールデッドになったときの不必要なコート外への飛び出しは、遅延行為になる恐れがあるので行わないこと。
  - ⑦ 試合中、ボールの交換を要求する場合は、選手が審判に申し出ること。
  - ⑧ 選手のソックスについては、安全確保の為、くるぶしが隠れる長さのものとする。
  - ⑨ ゲーム前の円陣は、メンバーチェック前に8名以内で行うこととする。但し、COVID-19 感染拡大予防のため、大きな声を上げてハイタッチをする等の行為は行わない。
  - ⑩ 試合終了後、両チームのキャプテンは記録用紙にサインをする。